

学会記事

日本地質学会2020年度 第5回理事会議事録

日時：2021年4月3日（土）14:00-18:00

【WEB会議形式】

出席役員 理事（44名）：上松（渡邊）佐知子・芦 寿一郎・天野一男・安藤寿男・磯崎行雄・ウォリス サイモン・内野隆之・大藤 茂・岡田 誠・緒方信一・笠間友博・狩野彰宏・亀尾浩司・亀田純・亀高正男・川端清司・北村有迅・清川昌一・小宮 剛・齋藤 眞・坂口有人・佐々木和彦・杉田律子・高嶋礼詩・竹下 徹・辻森 樹・中澤 努・納谷友規・奈良正和・西 弘嗣・根本直樹・野田 篤・早坂康隆・平田大二・星 博幸・細矢卓志・保柳康一・松田達生・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子・矢部 淳・山口飛鳥 監事（2名）：岩部良子・山本正司

欠席役員 理事（5名）：尾上哲治・後藤和久・小松原純子・内藤一樹・藤井正博

* 議決：出席者の過半数 23名

* 開催にあたって、上松理事および内野理事を書記に指名した。

報告事項

1. 執行理事会報告

中澤常務理事より2020年度第7回～第11回執行理事会の報告が行われた。また、会員動静について緒方理事より説明された。2021年3月末時点での会員数は合計3284名（昨年比-162名）。新規加入減は学術大会不開催による。

2. 理事・委員会・研究委員会等報告

1) 行事委員会（星理事）

2021年度学術大会（名古屋大会）について開催形式、会期、参加費、発表様式、ジュニアセッション、懇親会、地質情報展など具体的な内容について詳しい説明が行われた。また2022年度学術大会（早稲田大会）について概要が説明されると共に、2023年度以降の学術大会の予定（2023年度：近畿支部担当、2024年度：東北支部担当）について報告があった。さらに昨年度実施好評を博したショートコースを継続・発展させるための運営体制、内容、今後の予定について説明が行われた。

2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

地質学雑誌の編集状況が説明された。投稿数はやや低調気味である。

3) アイランドアーク編集委員会（狩野理事）

IARの出版状況、編集状況、印税等について説明があった。投稿数は好調で、今年は現時点で19本に及ぶ。特集号企画は効果がある。また、地質学会とWileyとの契約延長について説明された。なお、2022年度から、Island Arc賞の賞金が、今年度から年間ダウンロー

ド賞および学会のオンライン購入義務が廃止となった旨、報告があった。

4) 地質技術者教育委員会（天野理事、佐々木副会長）

天野理事より2021年3月7日に開催したJABEEオンラインシンポジウムについて報告があった。また佐々木副会長より地質技術者教育委員会の活動について説明が行われた。今後は好評であったオンラインシンポ、高校生向けコンテンツの用意等を行っている。

5) 地質の日（矢部理事）

チバニアンおよび断層と地震に関するオンラインでの一般講演会（5/9）など、地質の日関連行事について説明が行われた。

3. 専門部会年次報告（辻森理事）

2020年度専門部会の年次報告について説明が行われた。

4. その他

坂口理事より、2021年2～3月に実施した若手会員に対しての意向動向調査アンケート結果について説明があった（75名回答：回答率25%）。高校での地学履修率の状況や、学生の学術大会参加の実態など興味深い結果が報告された。詳細は今後ニュース誌に掲載する。

審議事項

1. 名誉会員候補者の選出について（佐々木副会長）

3名の候補者について総会に諮ることが承認された。

2. 各賞受賞者の決定（磯崎会長、竹下理事）
国際賞1件、棚山雅則賞2件、Island Arc Award 1件、計4名の候補者について承認された（学会賞、小澤儀明賞は該当者なし）。また、論文賞3件、奨励賞2件、学会表彰1件の候補について承認された（小藤文次郎賞は該当者なし）。

選考委員会は、今回の選考の判断基準を明確に示して、次期委員会に引き継ぐ。また、竹下委員長から、小藤文次郎賞については地質学雑誌・Island Arc以外の雑誌も対象となり選考の負担が大きいため、専門の選考チームを設けてはどうかと提案があった。また、奨励賞・論文賞について、対象論文を専門部会等が責任をもって網羅的に精査した上で推薦する方式にしてはどうかとの提案があった。他理事からは、現在でもそのようにしている専門部会はあり、それを他部会にも徹底して頂いてはどうかとの意見が出された。これらの提案に関しては、執行理事会で議論していく。

3. 日本ジオパーク学術支援連合への参画（天野理事）

日本ジオパーク学術支援連合へ参画することが承認された。なお、事務局は日本ジオパークネットワークが引き受け、地質学会（参加団体）は分担金を支払う義務がないこと、およびジオパーク検定が本連合の事業から外されたことが確認された。他理事からは、地質

関係者が日本ジオパーク委員会にも積極的に関わっていくべきとの意見があった。

4. 行動規範の改定（松田（博）理事）

行動規範の改定案が提示され、承認された。本規範は時代に則した内容に大幅改定され、内容は顧問弁護士にも確認済みである。なお、この規範は本理事会での承認後、有効となるので、会員には早急に内容を周知する。

5. 各専門部会規則の整備および現行地質過程部会の解散（廃止）について（辻森理事）

14の専門部会年次報告と部会規則の整備が行われた。各部会から規則案が提示され、承認された。また現行地質過程部会については、部会員の減少、他部会との重複、一定の役割終了などから解散の希望があり承認された。

6. 表彰制度見直しに係る学会運営規則及び各賞選考規則、各賞選考委員会規則の改正案（磯崎会長）

学会運営規則、各賞選考規則および各賞選考委員会規則の改正案が提案され、承認された。

なお、運営規則の承認については総会議案となる。他理事からは、賞の種類増加に伴う選考委員会の負担増加の懸念や、統一の選考基準を設ける必要性が示された。

7. 地質学雑誌の電子化（中澤常務理事）

ひっ迫した財政状況に鑑み、来年1月より地質学雑誌を電子化することが承認された。ただし、ニュース誌については従来通り冊子を毎月発送する。電子化に当たっては、会費額も含め会員サービスの維持等について、複数の理事から様々な意見が出され、これらの課題について今後早急に議論を進めていくことを確認した。まずは、理事会として電子化について会員に早急かつ丁寧に説明を行っていくとの方針が示された。

8. 定款の変更及び非会員の日本地質学会名誉会員推薦の提案（矢島理事）

名誉会員の推薦対象を非会員に広げる提案は、反対多数により否決された。もともとは特定の非会員を対象とした提案であったが、他理事からは、地質学の普及に貢献された非会員に対しては別の形で感謝の意を示してはどうかとの意見があった。

9. 2020年度事業実施概要（磯崎会長）

2020年度事業についての実績概要について説明がなされ、承認された。

10. 2021年度事業計画（磯崎会長）

2021年度事業計画骨子案について説明がなされ、承認された。

11. 2020年度決算概算（緒方理事）

2020年度決算について説明がなされた。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大による学術大会の中止によって、新規入会者数（すなわち会費収入）は減少したが、学術大会以外にも中止となる事業が多く、支出額も抑えられ、最終的には黒字となった。

12. 2021年度予算案（緒方理事）

2021年度予算案について説明がなされた。今年度、学術大会・地質情報展実施のために申請した科研費が不採択となったため、追加の

予算計上が必要である旨補足説明があり、それを含めて11項の決算概算案、本予算案とともに承認された。他理事からは、今後収入が減っていく中で、固定費も含め予算削減案を早急に検討する必要があるのではないかとこの意見があった。

13. 総会議案の決定（中澤常務理事）

6/12総会議案について提案がなされ、承認された。

14. その他

竹内圭史会員から5000万円の寄付申請があった旨報告があった。ご本人が希望されている「若手野外地質学者の育成」という用途について本理事会で承認し、謹んで篤志をお受けすることとした。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2021年6月12日

理事：議長 道林克禎

理事：副議長 山口飛鳥

代表理事：会長 磯崎行雄

理事：副会長 佐々木和彦

理事：副会長 平田大二

監事：岩部良子

監事：山本正司

理事：出席理事名（省略）

2020年度第12回執行理事会議事録

日程：2021年5月8日（土）13:00～17:00

【WEB会議】

出席者：磯崎、中澤、佐々木、平田、岡田、松田、高嶋、矢部、ウォリス、辻森、星、亀高、大藤、小宮、狩野、緒方、堀（ゲスト ダイバーシティー関連報告）

欠席：坂口

事務局 堀内

*定足数（過半数：9）に対し、16名の出席

*前回議事録（20-11回）の確定。

報告事項

1. 全体的報告

- ・地質学雑誌完全電子化実施（2022年1月からの実施）について、ニュース誌4月号に掲載した。
- ・第25期日本学術会議により「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」（マスタープラン2020）のフォローアップと、新規計画の創出のためのヒアリングが実施される（6/26）。地質学会として、昨年選定された次の研究計画の内容をもってヒアリングに参加する。「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築（計画番号94 学術領域番号24-1）（担当：

小宮）。

- ・青少年のための科学の祭典2020（地質学会後援）の終了報告があった（コロナ感染拡大防止のため、50大会のうち45大会が中止）。

- ・「泉の石」出版については、辻森理事が中心となり、出版に向け標本の写真撮影が進行中。化石写真が不足しているため博物館に撮影や写真提供等を交渉予定。また当初の企画から時間が経過したため、出版社を再選定中。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

- ・朝日新聞社より、第19回高校生・高専生科学技術チャレンジJSEC2021（募集期間：21/9/3-10/4）への後援依頼があり、承諾した。

- ・日本科学技術振興財団より、青少年のための科学の祭典2021（会期：21/6/21-22/2/27、全国49会場で開催予定）への後援依頼があり、承諾した。

- ・Tecno-Ocean 2021実行委員会より、Tecno-Ocean 2021（会期：21/12/9-12/11、於 神戸コンベンションセンター）への協賛依頼があり、承諾した。

- ・2021年度住友財団 基礎科学研究助成・環境研究助成募集の案内（締切6/9）【→geo-flash, ニュース5月号掲載】

- ・令和3年度北海道職員（学芸員又は研究職員（地学（古生物））採用選考の案内（締切5/14）【→geo-flash, ニュース4月号掲載】

- ・令和3年度地質調査総合センターの体制についてご挨拶（書面）があった（センター長：中尾信典氏（新任）ほか）。

- ・株式会社ダイヤコンサルタント新役員体制についてご挨拶（書面）があった（代表取締役社長：野口康彦氏ほか）。

<会員>

1. 今月の入会者(8名)

正会員（3名）：木村英人、前川 匠、今井宏太郎

正（院割）会員（4名）：西沢志穂、原田浩伸、山口麻菜、藤原 寛

正（学部生割）会員（1名）：吉本剛瑠

2. 今月の退会者（2名）

正会員（2名）：夏川寛央、梅澤優美

3. 今月の逝去者（4名）

名誉会員（3名）：唐木田芳文（逝去日2021年1月21日）

石井健一（逝去日2021年2月23日）

星野通平（逝去日2021年4月29日）

正会員（1名）：榊原謙一（逝去日2021年3月9日）

4. 2021年4月末会員数

賛助：27、名誉：38、正会員：3230〔正：3176、院割：52、学部割：2〕合計3295（昨年比-145）

<その他>

- ・日本技術者教育認定機構（JABEE）の2021年度年会費（10万円）を納入した。

- ・会員管理システムのクラウド化：2021年度早期の導入は見送り、現スタンドアロンシステム会社のクラウドシステムの他に5社から資料説明と見積り依頼中。5月末に契約先の決定を目指す。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

- ・第12回フォトコンテスト審査結果発表。画像および講評を公開した（学会HP、ニュース4月号掲載）。東京パークスギャラリー（上野公園）にて作品展示会開催中（5/4-5/17）。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

- ・大会予告記事（ニュース4月号）発行
- ・学術大会企業ブース代替企画の状況（坂口）：「2021名古屋大会プログラム&誌面ブース」の募集としてHPに掲載。また4月中に関連民間企業40社、書籍出版社14社、研究機関・学協会11機関、関連大学40教室に案内を送付した。

- ・2022年大会：関東支部（会場 早稲田大、会期を調整中。巡検コースを準備中。）

- ・2023年大会：近畿支部（会場 京都大）

- ・ショートコース第3回 5/23（日）津波堆積物（講師 藤野滋弘・後藤和久）、第4回 7/18（日）論文・科学のあり方（講師 磯崎行雄・泊 次郎）、第5,6回21年秋開催予定。

- ・料金などについて審議（→審議事項）

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

特になし

3) 国際交流委員会（ウォリス）

- ・中華民国地質学会（台湾）110周年記念行事に合わせて磯崎会長から祝辞（ビデオレター）を送ったが、新型コロナの影響で行事が延期となった。

4) 地質標準化委員会（辻森）

特になし

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（5月6日現在）

- ・2021年投稿論文：14〔内訳〕論説9（和文8、英文1）、レター1（和文1）、報告1（和文1）、ノート2（和文2）、口絵1（英文1）
- 査読中：28、受理済み：13（うち特集号8案内書3）

- ・127巻4月号：特集号「堆積学、堆積地質学の日本における進展と展望、最近25年を中心として（仮）」総説3、通常号 レター1、報告1（50頁、発送済み）

- ・127巻5月号：通常号 論説2、レター1、報告1（50頁、入稿中）

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

- ・2021年(vol. 30)出版状況：25編出版済み（論説24、その他1）、7編出版準備中（論説7）
- ・2021年投稿状況：22編（論説20、総説1、